

## 22世紀の人類像

### (1) 人類共同体思想は日本の精神風土のたまもの

日本型移民国家創成論のような日本の国家ビジョンが世界の注目を浴びるのは非常にめずらしいことではないか。世界の知識人は私の移民国家論のどの部分に関心が高いのだろうか。

外国の知識人と討論した結論をいえば、移民後進国の日本が、日本民族をはじめ世界の諸民族がうちとけて一つになる「人類共同体社会」の創造を提案している箇所ではないかと思う。たとえば、2014年4月、私の講演を企画した南カリフォルニア大学日本宗教・文化研究センターのダンカン・ウイリアムズ所長は、移民国家・日本の未来像を描いた私の著作を読んで、「真の移民国家ビジョンを提示したもの」「和を尊ぶ日本の伝統的精神風土から生まれたもの」「ハイブリッドジャパンを目指すもの」と評価した。

世界の移民政策の専門家は人類の多様性を強調し、多文化共生を目標に掲げる。私は人類の同一性を強調し、人類が一つになる地球共同体の理念をうたう。

坂中英徳が提案する日本型移民国家論は、人類未踏の移民国家の創設、地球規模での人類共同体の形成、恒久的な世界平和体制の構築の三本柱からなる。22世紀の人類社会のあり方まで視野に入れたもので、日本の精神風土で育った日本人にしか書けないユートピア物語である。

人類は多様な人種と民族と国民に分かれているが、その大本は一つである。人類は生物分類学上は唯一のホモ・サピエンスに属している。人間の根の部分の文化と価値観は共通するところが大部分である。人種が異なっても、相互にコミュニケーションでき、相互に共感し、相互に理解できる存在である。

文化を共通する種としての人類の本質に照らして考えると、日本が世界初の人類共同体の実現を国家目標に定めても、それは決して夢物語ではない。時間はかかっても、和の心の遺伝子を持つ国民が総力を挙げて取り組めば、実現の可能性はあると考えている。

「人類は一つ。人種や民族のちがいはあっても同じ人間。文化や価値観のちがいはあってもごくわずか」という普遍的な人類像に基づき、学問としての移民政策学の発展に寄与したいという望みをいただいている。

### (2) 世界平和哲学の世界史的意義

民族や文化の異なる人と人との平和共存の前途は険しい。人類史の書をひもとけば、異なる民族間の戦争の歴史であったことは歴然としている。文明が進んだ21世紀の世界でも、人類の本性ともいべき民族と宗教の問題に起因する戦争が頻発している。また、動

物社会に見られる縄張り争いや子孫を残すための生存闘争も人類の本能として根強いものがある。

しかし、その一方で、平和を希求する心が人類の DNA にインプットされているのも事実である。世界の人々の理性と平和を願う心がひとつになり、世界平和体制を創る夢が 22 世紀中に実現することを願ってやまない。わたしは、人間と人間の戦いが激化の一途をたどり、人類を全滅させるようなことは絶対あってはならないとひたすら祈念する。

地球上で戦争が絶えない根本原因は、精神文明が進んだ人類社会にしか存在しない民族精神と宗教心が厳然として存在すること、それぞれの民族が文化と宗教の優劣を競って戦争を繰り返すことにある。人類の心に刻み込まれている民族と宗教の問題を平和裡に克服しないかぎり、世界の恒久平和は永久に実現しない。

以上のような人類学的思考と世界史観に基づき、わたしは次のような仮説を立てた。「異なる民族と宗教に対する寛容の心がある日本人は、人類社会がかかえる永遠の課題を乗り越える蓋然性が高い民族ではないか。八百万の神々が心に刻まれている日本人は、地球上に存在する様々な民族や宗教と上手につきあうことに長けた民族であり、民族問題・宗教問題を平和的に解決する能力を有しているのではないか」。

そして、前述の南カリフォルニア大学主催の「日本の移民政策に関するシンポジウム」において、坂中移民国家論の根本理念と位置づけられる人類共同体論と世界平和思想を世界の移民問題の専門家に披露した。

〈日本人は古来、人間はもとより動物、植物、鉱物など自然界に存在するあらゆる物と心を通わせ、自然に親しみ、そこに神が宿ると信じている。自然と自己を同一視する万物平等思想(アニミズムの自然観)を抱いている。それは人類を含む万物の共生につながる自然哲学である。万物の霊長の思い上がりを戒める日本人の叡智である。

八百万の神々を受け入れ、地球上に存在するすべての人種・民族はみな平等であると考えた日本人こそが、人類の悲願である地球共同体を創造できるのではないか。〉

さて、私の親友に敬虔なイスラム教徒がいる。27 年前に難民として日本に来たパキスタン人である。いま、東日本大震災の被災地に家族ともども移住し、支援活動に熱心に取り組んでいる。彼は多数の被災者の尊敬を集めている。

そのパキスタン人は坂中移民政策論の精髓である人類共同体構想の理解者である。2013 年 2 月、彼を激励するため宮城県の被災地を訪れた際に、彼は人類共同体思想の世界史的意義を強調し、それは「アニミズムの宗教心が根底にある坂中さんのユニークな発想によるもの」と感想を述べた。そのうえで人類共同体のアイディアの将来を予言した。

「坂中さんの人類共同体の理念は世界中に広まり、世界平和に貢献する。神の加護があるので近未来の地球社会で人類共同体が実現している。坂中さんは世界の人々に平和をもたらす救世主になる」。

信仰心の篤いイスラム教徒が真剣な顔で「坂中英徳は世界の救世主」と熱をこめて語るのを聞いて驚いた。異国の神の助けがあつて 22 世紀には地球規模で人類共同体社会が形

成されており、人類悲願の世界平和が現実のものになっているという。

在日パキスタン人の予言が適中するかどうかは不透明である。しかし、日本人の和の精神が根本にある人類共同体思想と世界平和哲学が世界の人々の共感を呼び、世界の普遍的理念の一つとして22世紀の地球社会で認められるという望みはかなうかも知れない。

### (3) 人類共同体・地球共同体・世界平和

人口が激減する50年後の日本は、世界有数の経済大国、軍事大国の地位は望むべくもない。そんな陳腐な国家目標に代えて、移民大国にふさわしい新国家理念を提案する。

新日本文明は人類愛で世界のトップの座を目ざしてはどうか。世界に先駆け、日本人と移民が協力し、日本列島の中に人類共同体をうちたてるのだ。それはとりもなおさず、被爆国の日本が平和大国として世界平和運動でリーダーシップを発揮することを意味する。

日本型移民国家がめざす究極の目標は、世界のすべての民族が融和して一つになる世界共同体の創成である。すなわち強固な世界平和体制の構築だ。

日本文化史が雄弁に物語るように、日本人は外国の文化や宗教を寛容の精神で受けとめ、日本独自のものへと発展させた。日本文化は、先祖代々の日本人が、世界各地から渡来した文化を旺盛な好奇心で受け入れ、それを自分たちの好みに合うものに磨き上げた雑種文化の優等生である。移民の受け入れも、和の心があり、多神教の日本人なら、成功をおさめるにちがいない。

以上に述べた移民国家の理想像と永遠の世界平和の夢を描いた新作が、『新版日本型移民国家への道』（東信堂、2014年）と、英語論文『Japan as a Nation for Immigrants』（移民政策研究所、2015年）である。このふたつの著作の発刊を機に内外で移民国家議論が盛り上がることを期待する。

ところで、戦争が絶えない世界の現状を見れば明らかなように、地球規模での恒久平和の実現は夢のまた夢の段階にある。そのことは承知しているが、抑圧されていた民族・宗教エネルギーが噴出し、世界各地でテロや内乱が頻発し、第三次世界大戦の勃発のおそれすら感じられる昨今、前掲の英文著作において次のような「世界平和宣言」を世界に向かって発信したことは意味があると思っている。

〈日本の移民政策は、人口危機に瀕した日本を再生させる国家政策にとどまらない。地球上の諸民族が和の心で平和共存する世界を希求する世界政策でもある。日本の移民革命思想は、日本のみならず世界各国に根本的変革を迫り、すべての民族の共存共栄と世界平和に貢献し、国境を越えて人類の一体化が進むグローバル時代に生きる地球人への最高の贈物になるだろう。〉

私の移民政策論の発展を見守ってくれた内外の友人たちは、理想の移民国家の創造と、人類共同体・地球共同体・世界平和体制の創造を一体不可分のものと関係づけた移民国家論を坂中理論の到達点と評価する。

和を尊ぶ日本精神から生まれた移民国家の理念が世界文明の地平を拓く夢を持ち続ける。  
22世紀のいつの日か、和の精神をはぐくむ日本の土壌で成長した世界平和哲学が地球人  
たちを平安に導く星としてきらめく時代がくると固く信ずるものである。